

## 経済安全保障重要技術育成プログラムの中間評価結果報告

## 経済安全保障重要技術育成プログラム／偽情報分析に係る技術の開発

① 事業テーマ名
偽情報の検知・評価・システム化に関する研究開発
② 事業者名
富士通株式会社
③ K プロ運用・評価指針の視点
<ul style="list-style-type: none"><li>研究開発ビジョンの達成及び研究開発構想の実現に向けた研究開発課題の達成目標や内容の妥当性</li><li>研究開発課題の達成目標に向けた進捗状況（国内外とも比較）及び今後の見通し（含む、多様な分野における活用の実現可能性）</li><li>研究開発課題における実施体制の構築状況</li><li>研究資金の効果的・効率的な活用</li><li>国民との科学・技術対話に関する取組</li><li>意見交換会において合意された内容の進捗状況</li></ul>
④ 研究開発構想に定める達成目標
<p>研究開発項目①「要件定義」 2024年までに対象とするユースケースを特定するとともに、それぞれのユースケースにおいて偽情報の真偽性の判定及び偽情報による脅威の評価に資するために必要となる機能を抽出・整理する。</p> <p>研究開発項目②「偽情報検知技術」 ● 研究開発項目①で特定したユースケース等を踏まえ、情報を構成する文章、画像、動画等を総合的に分析し、作為性を判定する技術を確立する。 ● 研究開発項目①で特定したユースケース等を踏まえ、情報に付随する客観的な事実（エンドースメント）の関連性に基づき、情報の真偽性判定に資する要素技術を確立する。</p> <p>研究開発項目③「偽情報評価技術」 研究開発項目①で特定したユースケースを踏まえ、偽情報に対する社会的影響等の脅威評価に資する要素技術を確立する。</p> <p>研究開発項目④「偽情報検知/評価システム化技術」 研究開発項目①において特定したユースケース等を用いて、偽情報検知/評価システムの仕様を確定する。SNS等のインターネットから情報を収集する手法や、偽情報の真偽性の判定の支援の対象とする情報を絞り込むための手法を確立する。</p>
⑤ 総合評価
B（評価基準を達成している）

## ⑥ 総合コメント

偽情報への対策を進める基盤となる取り組みとして、適切に目標・課題設定がなされている。研究開発は競争力のある成果が出ており、順調に進捗している。

シンポジウム等を通じた情報発信が積極的に行われており、一定の認知を得るに至っていると評価できる。

成果が広く社会で活用されるよう、Web API 仕様やデータスキーマ、サンプルコードの公開を進めるとともに、認知度向上のため、研究者・エンジニアが集まるコミュニティへの積極的な情報発信が必要である。事業終了後の活用を見据えた研究開発や取り組みを積極的に実施するよう努めてほしい。

ファクトチェック機能を認知領域防衛にどのように活用するのも含め、データ等のリソース確保について関係者と議論を深めつつ、開発システムが継続的に活用できるよう、具体的な検討を進めてほしい。

日々高度化する偽情報技術や拡大する対象情報に対応するべく、事業当初の目標に固定化せず、継続的な評価・見直しを図ることを推奨する。